

となみのおもしろし 利波臣志留志

～東大寺大仏建立にすべてを捧げた知られざる男の物語～



今からおよそ 1300 年前の奈良時代、国をあげて建設していた大仏建立が財政危機に陥りました。聖武天皇は「一束の草や一握りの土を持ち寄るのもよい、力を貸してほしい」と国民に呼びかけました。この呼びかけに一番乗りで応えたのが富山県砺波地方の豪族・利波臣志留志で、ありったけの米 3000 石（約 180 トン）を寄進しました。聖武天皇はこの功績を称え、志留志に貴族相当の位を授けました（映像①）。これがきっかけとなって全国から多くの寄付が集まり、無事大仏が完成したのです。利波臣志留志は大仏建立の最大の寄進者として、1300 年を経た今でも東大寺で名前が読み上げられています（映像②）。

この映像は歴史学者や研究者にインタビューしながら、利波臣志留志の生涯の輪郭と業績を明らかにしています。輸送が困難な時代に 180 トンもの米を寄進しようとした発想、これを短期間に実現したプロジェクツ力、行動力などを浮き彫りにしながら、その心意気を、今を生きるとなみ野の皆様にお伝えできればと思います。

企画・制作・著作 となみ野を愛し 元気にする会

©2020（無断での使用・複写・編集を禁じます）



今からおよそ 1300 年前の奈良時代に、砺波一帯を治めていた豪族が利波臣（映像③）です。

「砺波」とも書き、昔はどちらも同じくらい使われていました。これら「砺」と「利」という漢字の語源から、砺波は波が非常に荒く人の住みにくい土地だったと推測できます（映像④）。特に庄川は大雨が降るとすぐに洪水を起こすので、半分以上の土地が荒地のままでした（映像⑤）。

さらに日照りや飢饉、伝染病が続き、多くの人々が苦しんでいました（映像⑥）。そのようなとき、来る日も来る日も砺波平野の隅々まで視察している人物がいました。利波臣の一員である志留志です（映像⑦）。彼は荒地を開墾して田畑にし、人々を救いたいと考えていたのです。



一方、奈良の都平城京でも度重なる飢饉と伝染病、さらには重くのしかかる税で人々の不満が高まり、政局も不安定でした（映像⑧）。人々の不満の一つが、自分が開墾した田畑を子供に引き継げない法律でした⁹⁾。そこで聖武天皇はこの法律を変え、自分で開墾した土地を永久に所有できるようにしました（映像⑨、⑩）。これが「墾田永年私財法」（743年）で、後の東大寺荘園など全国に荘園が発生する基礎となりました（映像⑩）。

志留志はこの好機をとらえ、10年足らずで多くの荒地を開墾し越中でも指折りの豪族になっていきました（映像⑪）。土地の開墾には海外の最新技術が取り入れられた可能性があります。

※1 「三世一身の法」はありましたが大多数の人々は一代限りの土地所有でした。

そのころ国を挙げて進めていた東大寺の大仏建立（映像⑬）が財政難となり、聖武天皇は「一束の草や一握りの土を持ち寄るのもよい、力を貸してほしい」と国民に呼びかけました。これを聞いた志留志はありったけの米を寄進すると朝廷に伝えました。志留志の寄進には、越中守（今の富山県知事）である大伴家持の斡旋（映像⑭）があったとも考えられています。

志留志は人々に「私は帝のおかげで荒地を開墾して長者になった。だから困っておられる帝を助けるために田んぼでとれた米を全て送るのだ」と語ったのではないのでしょうか（映像⑮）。こうして米を都に送る一大プロジェクトが始まりました。刈り取った米は3000石、約180トンになりました（映像⑯）。庄川、日本海、琵琶湖を経由し、米を都へ運んだと推測されています（映像⑰）。



奈良朝・平城京



平城京の要路から180トンの米を寄進した志留志



熊中貞吉(現在の富山県の副知事)の電賀状



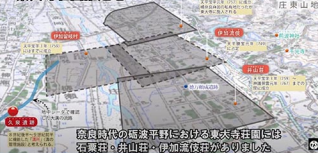
中条 充子
富山県公文書館 史料研究員



三重県・伊賀地方

779年、志留志は伊賀守(三重県知事)に就任

東大寺荘園推定地



奈良時代の砺波平野における東大寺荘園には石栗荘・井山荘・伊加流伎荘がありました



31

32



33

34

35

36

37

747年利波臣志留志は、何ヵ月もかけて米180トンを都へ運びました(映像⑩、⑪)。米180トンは大仏建立に携った延べ200万人にご飯を提供できるほど莫大です。聖武天皇は大変喜ばれ、志留志に外従五位下^{※2}という貴族クラスの位を授けました。当時の社会では異例の16階級特選でした。これを見た全国の多くの豪族が競って寄進するようになり、無事大仏は完成したのです。

20年後の767年に利波臣志留志は従五位上の位を授けられ、正式に貴族となりました。また越中員外介という嘱託の国司に就任(映像⑫)、東大寺荘園の絵図に署名を残しています(映像⑬)。さらに12年後の779年に、志留志は伊賀守(現在の三重県知事)へと出世しました。 ※2 外位は内位と区別されました。

奈良時代の砺波平野(庄川右岸)における東大寺荘園には、石栗荘・井山荘・伊加流伎荘がありました(映像⑬)。これらの荘園は東大寺正倉院(世界遺産)に千年以上も保管されてきた日本最古の地図にも描かれ、「専当国司従五位上行員外利波臣『志留志』」の署名も残っています。2019年に開通した砺波東バイパス(国道359号)の「伊加流伎大橋(映像⑭)」は、この辺りにあった伊加流伎荘に因んで命名されました。また、これら東大寺荘園への用水路と見られる大溝の遺構も、砺波市・久泉遺跡の発掘調査で発見されました(映像⑮)。

日本最古の歴史書『古事記』には唯一の越中人として「利波臣」の氏族名が載っています(映像⑯)。また国の正史である『続日本紀』『日本書紀』の続編には利波臣志留志の米300石寄進の記録が残されています(映像⑰)。